

所属・資格 心理学科・教授

申請者氏名 近藤 孝司

研究課題		セルフケア・エージェンシー概念の検討と日本語版尺度の作成
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>「セルフケア」は、自分自身をリソースとして心身の健康の維持・回復を目指し、積極的に推進する行動全般を意味する。セルフケアは日々の重要な健康維持行動であるが、様々な問題や課題によって実施が困難になる場合がある。心理職を含めた対人援助職は、直接的なケアのほかに、被支援者がセルフケア行動を行えるようにサポートすることも大事な仕事となる。また対人援助職自身もセルフケアが重要である。</p> <p>しかしセルフケア研究は、旅行や運動、読書などの行動した「結果」に注目されがちであるが、近年では、セルフケア機序および促進・抑制要因に関心が集まっており、セルフケアへの志向性や実施能力を表す「セルフケア・エージェンシー」が注目され、各国で尺度が作られている。しかし本邦での研究はまだ少ない。</p> <p>そこで本研究は、①本邦におけるセルフケア・エージェンシー概念の検討、②セルフケア・エージェンシー尺度の日本語版作成、③セルフケア・エージェンシーの基礎統計資料の収集、を目的に探索的・基礎的研究を進める。</p>
	研究の結果	<p>著作権を所有するカンザス大学（著作者が亡くなっているため）と日本大学の間でサブライセンス契約を結び、翻訳の許可を得た。翻訳会社にダブル・バックトランスレーションを依頼し暫定版を作成した。本学の倫理審査の承認（06-78）を得てから、2024年10月にオンライン調査会社を通して、標準化の調査を行った。</p> <p>その結果、原版とほぼ同じ因子構造が得られたが、他国版の構造とは一部異なること、信頼性係数が一部の因子で低く、モデルの頑健性に課題がみられた。この課題は原版の段階で報告されていた。妥当性の検討に関しては良好な結果が示された。以上から、使用法に注意が必要であるものの、Appraisal of Self - Care Agency Scale- Revised Japanese version (ASAS-R-JP)を作成した。</p>
	研究の考察・反省	<p>標準化作業を経たセルフケア・エージェンシーを評価する尺度として、本邦初となる尺度である。また健常群と慢性疾患群で比較しており、臨床的応用も可能な尺度として整備した。また各デモグラフィック要因との関連も検討し一定の基礎的データを収集した。以上から、今後の発展研究や応用研究も視野に入れた研究成果を構築した。</p> <p>次に課題点である。もともとモデル頑健性の弱さは予想されたものであったが、質問項目に由来するほか健康に対する考え方や実践に関した文化差にも起因している。しかしながらセルフケア・エージェンシーに関する研究は日本においてまだ数が少なく、文化差がどの程度影響を与えるのか不明確であった。この点について、もう少し文献を収集し、一定の見当を付けておくべきだった。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>2024年から開始した研究であり、発表の段階までまだ研究が進んでいない。2025年度に研究発表と論文投稿をする予定である。</p>	